

令和8年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	9	氏名	稲 葉 晃 司 議員	1 / 2	
発言項目		要 旨				答弁者	
1	医師少数地域の富士医療圏域を取り巻く環境について		<p>(1) 医師少数地域の富士医療圏域に位置する富士宮市立病院において、医療従事者の不足、施設老朽化に対するリニューアル化、DX化の遅れ、救急の受入れ等、問題や課題は山積している。医師少数地域の富士医療圏域の状況が大変厳しいことも理解した上で以下伺う。</p> <p>① 新病院長は今後の富士医療圏域の展望をどのように捉えているのか。また、富士宮市立病院の基本理念に沿った医療を維持するために短期的にできること、中長期的にできることの優先順位をどのように考えて、今後の病院運営に生かしていくのか。</p> <p>② 現在の富士宮市立病院のセールスポイントは何か。</p> <p>③ 医師の確保対策の一環として、ダヴィンチの導入について令和7年6月定例会において前病院長は「将来的には必ず導入する」と議会で答弁されたが、ワーキンググループでの検討はどの程度進んでいるのか。</p> <p>④ 医療スタッフの確保対策について伺う。特に看護師の確保が厳しい状況において、どのような対策を講じていくのか。</p> <p>⑤ 地域医療の負荷軽減するための予防医療について伺う。日本人の1,330万人（成人の8人に1人、70代の3人に1人、80代は2人に1人）が慢性腎臓病の患者数と言われている。先天性的なものは別として、生活習慣に起因するものについてはそこにアプローチすることで地域医療の負荷軽減につながると考える。保健福祉部だけでなく、教育委員会も一緒になって幼少期から食育などを通じて予防医療の大切さや、生活習慣病の怖さについて学ぶことに力を注いでいくことで、多くの市民が末永く健康に生きていくことにつながると考えるが、市当局の見解について伺う。</p> <p>(2) 富士医療圏域における救急搬送困難事案について伺う。</p> <p>① 先日の地域医療勉強会において630問題、430問題は改善傾向にあるとの説明を受けた。令和7年の救急搬送件数6,207件の内訳について伺う。</p> <p>② 富士地域救急プロトコルに沿って富士宮市立病院が診るべき救急搬送はどれほどの割合で受け入れることができたのか。</p> <p>③ 救急専門医の招聘はどのようにして行われていくのか。これまでどおりチームによる派遣を要請していくのか。</p> <p>④ 令和6年11月定例会の答弁で前病院長はダブルライセンスによる病院総合診療医の育成について答弁されていたが、その後、修正課題等の検討はされてきたのか。</p> <p>⑤ 今後の救急受入れについてどのような考えを持って取り組んでいくのか。</p>				市長 副市長 教育長 病院長 関係部長

令和8年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	9	氏名	稲 葉 晃 司 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		<p>⑥ これは実際に富士宮市で起こった案件であるが、狭隘道路の坂道の奥に位置する住宅から救急要請があり、狭隘道路のため、救急車の通行に支障を来し、現地までストレッチャーで坂道を上り患者を救急車へ運び搬送したということがあった。その狭隘道路は受益者の負担により狭隘部分を改善した場所だけに救急要請をかけた方は当然緊急車両が通行できるものと思っていたとのことで、怒り心頭であった、という内容である。これは、救急搬送困難事案以前の話になるのかもしれないが、この他にも狭隘道路のため、救急車が住宅街から出ていく際に道を曲がり切れずに何度も切り返していった等の話は市内の他の場所でも聞いたことがある。そこで以下伺う。</p> <p>ア 狭隘道路の情報を救急隊はどこまで把握できているのか。</p> <p>イ このようなケースの場合、その情報は消防本部から都市整備部に共有され、改善されているのか。</p>				